

## 岩手の風土記シリーズ（25） 宮沢賢治ゆかりの地を訪ねて（花巻編）

花巻というと何を連想するだろうか？「温泉」、「高村光太郎」、「萬鉄五郎」、「新渡戸稲造」あるいは「わんこそば」や「マルカンデパート」等を思い浮かべる人もいると思う。しかし岩手が生んだ詩人で童話作家の「宮沢賢治」を連想しない人はいないと思う。今回は賢治ゆかりの地である花巻を訪ねてみた。賢治は花巻の商家の長男として生まれた。この商家とは古着商（現在の質屋）で、いわゆるボンボンであった。商家に学問は不要という祖父の反対を押しつけ、盛岡中学（現盛岡一高）に入学、その後盛岡農学校（現岩手大農学部）に首席で入学した逸材でもあった。その後再び花巻に戻り花巻農学校の教員を経て、イーハトーブの世界を夢見て、農業の普及や、執筆活動にいそしんだとされる。今回は花巻近辺の賢治ゆかりの場所を紹介しながら、賢治の世界観を垣間見てみたいと思う。賢治の



【SL とメガネ橋】

ふる里花巻は、たびたびテレビ番組にも出てくる。「浅見光彦シリーズ イーハトーブの幽霊」、「温泉若女将シリーズ 花巻温泉」、「夏目龍之介シリーズ 花巻編」など枚挙にいとまがない。それらのミステリーに必ず出てくるのが、遠野市宮守にあるメガネ橋である。銀河鉄道の夜をモチーフとしたとされている場所である。この橋をSLが走る姿は、まさに銀河鉄道の夜のイメージで、鉄道ファンだけではなく、我々一般人にとっても憧れの場所でもある。夜はライトアップされていて、一層幻想的な雰囲気を醸し出している。この「銀河鉄道の夜」の背景には、賢治が盛岡農学校の学生だった頃、友人と二人でご来光を拝みに岩手山に上った時の、降るような星空を眺めていた時に、一条の流れ星があった時をイメージして作成されたようだ。この頃は、星空が真にきれいだった事は言うまでもない。次は賢治の生まれ故郷である花巻市の名所を紹介しよう。賢治ゆかりの場所はいたるところにあるが、まずは「宮沢賢治記念館」でその概要をつかむのが良いと思う。JR 新花巻駅近くのこの場所に「宮沢賢治童話村」や「花巻市博物館」等が直ぐ近くにあり、時間があつたら是非立ち寄ってみてもいいと思う。宮沢賢治記念館は入園料 350 円を支払ってから入ることになる。中には賢治直筆の手紙や、文章、資料などが数多く収められていた。特に目を引いたのは、イギリス海岸で集めた化石類や、鉱物類の標本が多かった



【宮沢賢治記念館】



【レストラン山猫軒】

ことである。賢治の造詣の深さが伺える一面でもあった。駐車場を挟んで反対側にはレストラン山猫軒があった。訪れた時間が夕方だったため、中は開いていなかったが、童話「注文の多いレストラン」の舞台になった店名である。この話は傍若無人にふるまう人間に対する自然界の警鐘的な考え方に基づいていて、実はこの店は客に食べ物を出す店ではなく、客を食べ物にしている店だったのだ。何とか命からがら逃げることができたが、現代人が直面している、気候変動などの地球環境問題に対して先見の明を持っていたように感じる。また今話題の新型コロナウイルスのまん延も、地球からの警鐘のメッセージに思えてならないと感じるのは筆者だけであろうか？次に紹介するのは「イギリス海岸」である。ここは新花巻駅から車で15分たらずの北上川西岸に位置している。これは賢治が花巻農学校の教員時代に、学生を連れて遊びに来ていたころ、イギリスのドーバー海峡の白亜の海岸の連想させる、泥岩層が露出することから、この場所を



あだ名で「イギリス海岸」と呼んだことに起因している。作品「イギリス海岸」でも記されているように、**【イギリス海岸 花巻市 HP より】**ドーバー海峡は賢治の憧れの地だったようだ。現在は川上にダムが出来たため北上川の水量が安定した為、川底の泥岩層が見えることは無いようだが賢治がいた頃は洪水期があり、川底の泥岩層が現れて、化石や各種鉱石を採取して楽しんでいただろう。筆者も昔化石を取りに裏山に行き、また近くの畑でヤジリ探しなどをした記憶があるので、この楽しさは十分理解できる。なお賢治の命日である9月21日は、関係各所の協力を得て川の水位を下げて、「イギリス海岸出現の試み」を行っているが、

昨年は新型コロナの影響で開催されなかったようだ。さて次は「羅須地人協会(らすちじんきょうかい)」である。現在は花巻空港滑走路の北側にある、花巻農業高校の敷地内に移転されているがコロナの影響で見ることができない。1926年、花巻農学校を退職した賢治が農民たちを集めて農業技術や農業芸術論などを講義するため



に設立。1928年に病気になるまで、賢治はこの建物で**【羅須地人協会 花巻市 HP より】**自炊生活をしていた。あの有名な「下ノ畑ニ 居リマス 賢治」の看板で有名な場所である。賢治が教職を辞したのには様々な理由があると言われて いるが、最も大きかったのは生徒に「農民たれ！」と教えながら、自らが俸給生活に甘んじていることに対する葛藤があったとされる。この農民たれ！の発想は、盛岡農学校時代の友人「保阪嘉内(ほさかかない)」に影響されたようだ。そして宮沢家の別邸を改造して羅須地人協会という私学塾を開講したのだ。しかし、はた目にはいわゆるおぼっちゃまの道楽にしか映らなかったのかもしれない。そして当時の近隣住民には変人扱いされていたようである。天才肌の人は他人には理解されがたいというが、正にその典型だったと思われる。このほか賢治の作品に

出てくる、「なめとこやま」、「ドクモミした川」とか、あるいは「賢治自耕の地（下ノ畑）」など見どころがたくさんある。今回は代表的な観光スポットの一端を紹介したに過ぎないが、宮沢賢治という人物に深く興味を抱かせてくれた訪問であった。尚、賢治が学生時代を過ごした盛岡にも、ゆかりの場所はたくさんある。いつかその場所を紹介しながら、宮沢賢治の世界いわゆる「イーハトーブ」の世界観をちょっとだけでも垣間見たいものである。

#### 参考資料

遠野市観光協会ホームページ <https://www.tonojikan.jp>

花巻市観光協会ホームページ <https://www.kanko-hanamaki.ne.jp>

NHK BS2 映像詩 宮沢賢治 銀河への旅 ～慟哭の愛と祈り～ 前編、後編